

——はやぶさの実行委員会の役割・活動について教えてください。

渡部 主催者とははやぶさ実行委員会の委員長のもとで、実行委員の団員10人から15人ほどが演奏統括、広報、チケット販売などの各部署に分かれ、組織立って活動しています。学生はテスト期間があったり、社会人も医療系の仕事で忙しく、常に全員がはやぶさに100%の時間を割けるというわけではないので、お互いに助け合いながら運営しています。

三村 チームワークは大切にしています。部署ごとの縦のつながりを学びつつ、横のつながりも学べる…実際に、社会でもそういう現実がありますよね。

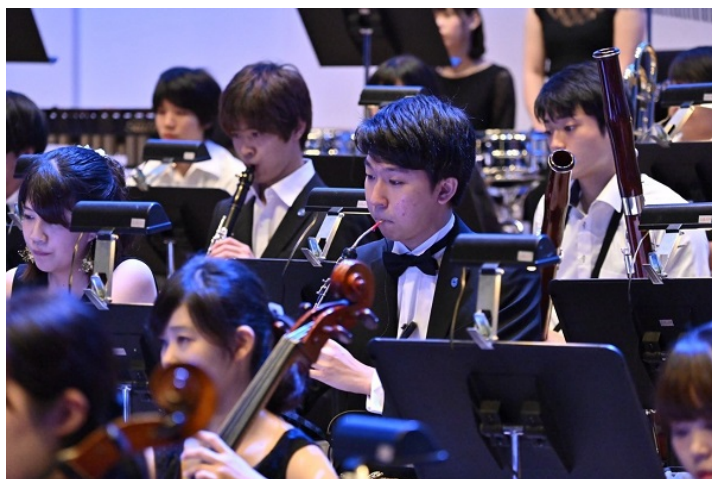
——新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による影響はありましたか。

渡部 2020年に創立5周年記念と銘打ち、三つの演奏会を企画していましたが全て中止になってしまいました。大人数のオーケストラでは演奏できなくても、少人数のアンサンブルならできるのではないかと企画したのが、2回開催した「『今だからこそできる』withコロナ限定プレミアムコンサート」です。

少人数とはいえ人を集めて演奏活動をするということで、感染対策には本当に注意を払いました。もちろん、全員がPCR検査を受けて臨みました。

このコンサートでは、オンライン配信という完全に新しい試みにも挑戦しました。収録したコンサート映像を流すというものでしたが、ただカメラで撮った映像を流すだけではそのままのありきたりな映像になってしまうため、テロップを入れるなどの編集も必要で、直前期には根を詰めて向き合いました。主催者も連日、毎晩のように配信会社とやりとりをしてくださいました。

三村 収録したものではありますが、ホールにいるかのような臨場感を出すことを重視し、試行錯誤しました。やはりホールで聴く音と、録音した音はちょっと違うのです。収録をしてくれる人の好みによっても音が変わってくるので、「ここはこうしてもらえないか？」などと業者の方と細かいやり取りや調整も行い、リアルな音に近付くようにしました。



渡部真仁氏（写真中央）

——はやぶさの今後の目標を教えてください。

三村 アメリカ、ロシアなどの海外の医療系の大学や医療従事者と、音楽をツールにして交流したいです。いわゆる海外遠征ですね。もう少し早く挑戦したいと思っていたのですが、世の中がこのような状況になってしまうとは思っていませんでした。また、演奏のクオリティを高めたいという思いが強いので、誰もが知るプロの演奏者と共演したいです。

渡部 コロナ禍で開催した「『今だからこそできる』withコロナ限定プレミアムコンサート」アンサンブル演奏と、「交響楽団ははやぶさ&OPERA」オーケストラ公演は有料のオンライン配信を行いました。東京都病院協会に対しては無料で提供し、協会に所属していて配信を希望した病院の待合ロビーなどで映し出しました。後日、病院の関係者の方から、配信当日に車いすに乗ったたくさんの高齢の患者さんたちが画面の前に集まり、みんなで手拍子をしたり、「久しぶりに楽しいものを見られた！」と喜んでくれたというお話をうかがいました。はやぶさは「音楽×社会貢献」をモットーに活動していること、また、今後医療従事者になる者としてやってよかったと思いましたし、すごくうれしかったです。今後もできたらいいと思います。はやぶさは同協会から感謝状をいただいたんですよ。

三村 東京都病院協会へのオンライン無料配信は、患者さんに観てほしいという思いはもちろんありましたが、医療従事者に対する感謝の気持ちを伝えたいという意図もあり、主催者と話して決めました。患者さんについては外に出られない、ご家族とも会えないという状況が続いている中で喜んでいただけたというのは本当にうれしいことです。